

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師

奏楽 五十嵐美代枝姉妹

前 奏

開 会 招 詞 イザヤ書55章3節前半

\* 賛 美 歌 96:1 地はみなこえあげ (詩篇100編)

地はみなこえあげ 主をたたえまつれ

うたいつつ来たり よろこびつかえよ。

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去つてくださ。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。ア - メン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言 イザヤ書53章より

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 102:1 主よ、こたえたまえ (詩篇86編)

主よ、こたえたまえ まずしきわれらに。わがたましいを まもらせたまえ。

主によりたのめる しもべにすくいを 呼ばわるわれを あわれみたまえ。

公 同 の 祈 禱 祈禱書5 使徒信条

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われは、その独り子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりて宿り、おとめマ

リアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。

われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪の赦し、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。 アーメン。

献 金 (黒)教会活動 (赤)信教の自由に関する大中会の委員会 70  
今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 イザヤ書55章6-13節 (新協同訳聖書、旧約聖書1152頁)

説教・祈祷 「まことの神を求めよう」 L. スパーリンク宣教師

\* 賛美歌 62:1 ひとたびは死にし身も

ひとたびは死にし身も 主によりて今生きぬ、  
み栄えの輝きに 罪の雲消えにけり。  
昼となく、夜となく、主の愛に守られて、  
いつか主に結ばれつ、世にはなき交わりよ。

アーメン

\* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ  
願わくは御名をあがめさせたまえ  
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ  
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ  
我らに罪をおかす者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ  
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ  
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 64 み恵みあふるる

み恵みあふるる父・御子・御霊の一人の御神に御栄え尽きざれ。 アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇陽子長老 (司会・受付 次週: 門脇献一長老)

本日 受付 1階: 星野房子・藤井牧子執事 2階: 那珂信之執事 / ZOOMホスト・録音: 門脇光生兄弟

次週 受付 1階: 加藤良明・若月学執事 2階: 森永美保執事 / ZOOMホスト・録音: 雨宮信長老

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

聖書箇所：イザヤ書55章6-13節（新協同訳聖書、旧約聖書1152頁）

説教題： 「まことの神を求めよう」

参 照： ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 1、26-28、84、117

説教者： ローレンス・スパーリンク（キリスト改革派日本伝道会宣教師）

中心的主張点： 神様はご自分を求める人、誰にでもご自身を表し、豊かな恵みを賜る。

聖書朗読：イザヤ書55章6-13節（新協同訳聖書、旧約聖書1152頁）

主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。神に逆らう者はその道を離れ / 悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。わたしたちの神に立ち帰るならば / 豊かに赦してくださる。わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり / わたしの道はあなたたちの道と異なると / 主は言われる。天が地を高く超えているように / わたしの道は、あなたたちの道を / わたしの思いは / あなたたちの思いを、高く超えている。雨も雪も、ひとたび天から降れば / むなしく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ / 種蒔く人には種を与え / 食べる人には糧を与える。そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も / むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ / わたしが与えた使命を必ず果たす。あなたたちは喜び祝いながら出で立ち / 平和のうちに導かれて行く。山と丘はあなたたちを迎え / 歓声をあげて喜び歌い / 野の木々も、手をたたく。茨に代わって糸杉が / おどろに代わってミルトスが生える。これは、主に対する記念となり、しるしとなる。それはとこしえに消し去られることがない。

（以上は神のみことばです。主に感謝します。）

序説：やはり、イザヤ書はすごい書物です！聖書にある66巻の中で、一番好きです。2年ぐらい前に、何回かイザヤから説教しようと思って、実際に何回かしましたけれども、説教の準備が困難です。なぜかという、一応読み出すと熱中になってしまいます！美しい言葉遣いがあり、神様の主権的偉大さや罪人への呼びかけも、来るべき救い主についての予言や救いへの道と招待、数々のテーマはあまりにも素晴らしい！困ってしまうほどです。でもとにかく、今日は55章の一部を見て、「まことの神を求めよう」というテーマで考えたいと思います。今日の説教の中心的主張点を言いますと、「神様はご自分を求める人、誰にでもご自身を表し、豊かな恵みを賜る。」です。内容的に真の神を知ることに招待です。日々の悩み事などあるかもしれませんが、最も大切で、基本的解決になることは、このお方を知ることです。このおかたの他に自分の心を満たすことができる神はございません。すでに信じて、従っておられる方々は、どうぞ確認事項としてお聞きいただければ幸いです。喜びが再び湧いてくることを期待しましょう。

1、では、はじめに、イザヤ書55章の位置付けを確認しましょう。

預言者イザヤが生きたのは、だいたい紀元前760年から680年まででした。約束の地でできた王国は約200年前北のイスラエル王国と南のユダヤ王国に分裂しました。北の支配者の都合によって、ユダヤ王国の国内にあるエルサレム神殿の礼拝を禁じて、勝手に、先住民のカナン人の神々を礼拝することになります。バールとかアシュテロテの神々です。つまり、農業の神や雷の神様などです。日本の神道の宗教にとっても似ていました。まことの神に替えてこうする背信者に裁きが天から降り、アッシリヤ帝国の軍隊によって、イスラエル王国が紀元前722年に滅ぼされます。イザヤは常にこの悲劇的出来事をエルサレムから見ながら、ユダヤ王国の支配者と民に、まことの神礼拝に留まれ、でなければ同じ運命になるよ と忠告し続けます。しかし、不正な支配者が主なる神を恐れず、その怒りと裁きを招きます。イザヤも他の預言者の注意もほとんど無視され、とうとうくだてくる裁きを予め語ります。この裁きから免れることができません。イザヤが死んでから、実現するわけです。悲惨な状態となります。

けれども、このような警告とともに、イザヤは希望と慰めに満ちた予言もします。その中心に、神様が彼らの背信の罪にも関わらず、ご自分の僕、救い主キリスト（メシヤ）を送ってくださる、と語ります。彼らを全ての敵の手から救い出し、彼らの罪を償い、彼らのために新しい、永遠の王国をお立てになります。それはユダヤ人だけのためではなく、全ての国々のためだと言います。これらの予言を読んでみれば本当に驚きます。特に、来るべき主の僕が身代わりとなって、民の受けるべき裁きを自ら負ってくださる、と。そこで、この通りに、ナザレのイエスが定まったときに現れて、予言通り、救い主となってくださいます。一番有名なところは、救い主の苦しみを鮮やかに語る53章があります。この方が罪人の一切の罪と負い目を代わって支払い、ご自分の民を完全な救いに入れてくださいます。永遠の幸いを勝ち取るのです。

55章はこのすばらしい救いの業に続くことを語ります。主の僕によって与えられる喜ばしい結果なのです。

2、55章は基本的に、「来て救われなさい」というお招きです。イザヤ書45章22節にもこう書いてあります。「地の果ての全ての人々よ、わたしを仰いで、救いを得よ。わたしは神、他にはいない。」と。そして、55章の6節にこれに続いていいます。「主を求めよ、見出しうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。」つまり、探し求めるならば、出会えます。ご自身を救いの神、救いと命を授ける神として示してくださいます。これは聖書全体にある一つの基本的テーマです。神様を知れ というのは、「命を得よ」という意味です。

このテーマが聖書全体にあります。全ての事の始まりを語る創世記にも出てきます。私たちはそこで、創造主なる神の良き賜物に背を向けて神に逆らい、愚かで、良き世界に死を招いてしまいます。けれども、突然、神様の御心を慕い、神様と共に歩む人に出会います。創世記5章21-24節にエノクが登場します。悪を極めて、大洪水を招く時代に、神様の御心にかなうノアが登場します。偶像の神々を礼拝するメソポタミアのウルの町から、ご自分に仕えるアブラハムを呼び出し、歴史を徹底的に変える使命を授けます。創世記18章18-19節にこうなっています。「アブラハムは大きな強い国民になり、世界のすべての国民は彼によって祝福に入る。わたしがアブラハムを選んだのは、彼が息子たちとその子孫に、主の道を守り、主に従って正義を行うよう命じて、主がアブラハムに約束したことを成就するためである。」常に神様を求める特別な、主の選びの民族です。この言葉は紀元前2000年ごろに神様が語られました。

その時から約500年が経ちます。神様はエジプトで奴隷となってしまったアブラハムの子孫、イスラエル人にモーセという指導者を立てました。けれども、この民は頑なな心を持って神様に反逆します。モーセはこれによってくださる裁きの時が来ることを予言します。けれども、これとともに、困窮の中からも神様を求めなさい、と勧めます。申命記4章29-31節にある通りです。「主を尋ね求めねばならない。心を尽くし、魂を尽くして求めるならば、あなたは神に出会うであろう。これらすべてのことがあなたに臨む終わりの日、苦しみの時に、あなたはあなたの神、主のもとに立ち帰り、その声に聞き従う。あなたの神、主は憐れみ深い神であり、あなたを見捨てることも滅ぼすことも、あなたの先祖に誓われた契約を忘れられることもないからである。」

私たちが旧約聖書の歴史を読めば、このように勧められ、また、実際に神様を呼び求めるのはイスラエル人だけではないことを知ります。例えば、ヨシユア記でエリコの住民、遊女のカナン人ラハブに出会います。神様を恐れ敬い、主の民に加わります。ルツ記でモアブ人の女性、ルツに出会います。モアブ人について、厳しい言葉が申命記28章3節にあります。「モアブ人は主の会衆に加わってはならない。彼らの子孫は十代までも、いつまでも主の会衆に加わってはならない。」けれども、この女性ルツは不思議なことに受け入れられ、彼女は有名なダビデ王のひお祖母さんに相当します。実は、ラハブもルツもイエス様の先祖にもなっています。

預言者エレミヤはイザヤと同じように、イザヤが予言した裁きを受け、バビロンに捕囚に連れて行かれたイスラエル人にイザヤと同じように勧めます。多くの人の愛称聖句になっているエレミヤ書29章11-14節です。「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのとき、あなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く。わたしを尋ね求めるならば見だし、心を尽くしてわたしを求めらば、わたしに出会うであろう、と主は言われる。」私たちが人生の危機の時、困難と不安に陥られる時の慰めの言葉ではないでしょうか。

3、旧約聖書の幾つかの例を見て、「主を求めなさい。生けるまことの神はここにいる」と招かれた人々に会いました。では、新約聖書はいかがでしょうか。

登場人物の中で目立つのは洗礼者ヨハネです。マルコによる福音書の1章を見れば、預言者イザヤがその登場と活動を予言した人物であると書いてあります。ユダヤの人々に慰めの言葉とともに、来るべき救い主が間もなく現れることを告げ知らせます。そしてその通り、ナザレのイエス様が現れます。ヨハネの基本的メッセージとイエス様のメッセージは一致しています。旧約聖書にあるメッセージ、イザヤのメッセージにも一致しています。マルコによる福音書1章15節：「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」つまり、神に立ち返れ。神を求めるべき時が来たよ、というわけです。

イエス様の活動は主にユダヤ人向けでした。でも、誰であれ、罪人を悔い改めに導くことが主イエスの目的でした。ユダヤ人だけではありません。マタイによる福音書15章21節以降を見れば、イエス様がフォネキヤ人の女性に関わったことがわかります。ヨハネによる福音書4章を見れば、イエス様ご自身が救い主であることをユダヤ人が嫌うサマリヤ人の人々に知らせます。ご自分の御許に来る人を誰でも受け入れてくださいます。

使徒言行録になると、救いへの招待は全ての民族に宛てられていることが一番よくわかりまます。使徒言行録の10章にローマ兵の百人隊長のコルネリウスに紹介されます。ユダヤ人を支配している侵略者とみなされるのですが、信心深い方で、正義をもって街を司り、貧しい人々を憐れみ、まことの神様に心から仕え、ぜひこのお方についてもっと知りたい、出会いたいと願ってまいります。この時に神様はご自分を求めるコルネリウスたちに、使徒ペテロを送り、ユダヤ人とローマ人の間にあった隔てを取り除いて、彼らをペテロと同じ主の民として受け入れてくださいます。イザヤ書55章6-7節の実現です。

4、では、確認してみましょう。どうやってまことの神様を求めるでしょうか。聖書を通じて、答えは同じです。悔い改めて、神様の一方的恵みに頼ることです。何を悔いるのか？それは創造主なる神様から迷い出て行ったこと、このお方の御心に替えて、自分の意思や欲望を第一にしてきたことです。謙って、ご自身が約束してくださる恵みをお願いすることです。

イザヤの勧める道は、モーセが記した書物にも、歴史の書物にも、預言者の書にもこの道に出会います。心を砕いて、お願いすることを勧めます。救いは、まことの神様に出会うのは、私たちの偉い功績によるものではありません。神様のプレゼントです。でも、いつまでも提供されるものではありません。今のうちをお願いすることを勧めます。今が主を求める時です。

使徒パウロがアテネのインテリの人々に語った説教が使徒言行録17章にあります。本当は全部読みたいですが、彼らの愚かな偶像崇拜を指摘したら、パウロは29節以降にこう語ります。「神である方を、人間の技や考えで造った金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。神はこのような無知な時代を、大目に見てくださいましたが、今はどこにいる人でも皆悔い改めるようにと、命じておられます。」つまり、今のうちにまことの神に立ち返り、この方を信じて、この方を求めなさいといひます。

イエス様からも、多くの招きの言葉を伺います。天の神様ご自身が私たちに近寄らせてくださいます。ご自分を求める人を決して断ることなく、追い出しは絶対にしません。(マタイ伝11章28節：疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。)

5、イザヤは全ての人に呼びかけて、このように主を求めるように勧めます。全ての人にです。神様は分け隔てること、除外するようなことをなさいません。

私たちは旧約にも新約にもたくさんの例があることを見てきました。神様は場合によって私たちの期待外の、そんなはずもないと思われる人を招き入れて、輝かしい運命を持つものにしてくださいます。たとえ、いばらやおどろだらけの人生ではあっても、糸杉とミルトスで輝く人生にしてくださいませ。なんと美しいイメージでしょう！

イザヤの続きを読めば、素晴らしい約束があります。その対象はいわゆる不妊の女や宦官や貧乏な在留異国人、つまり、最も蔑まれる人たちです。多くの子孫を与え、栄誉ある立場に立たせて、嗣業を多く受け継がせてくださると約束します。そして、あらゆる国の民がその約束に与るのです。イエス様も引用していますイザヤ56章7b節：「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。」

私たちは神様を求めるときに主は私たちにみことばを聞かせてくださいます、心の耳で。新しい命で私たちを生まれ変わらせてくださいます。ご自分のすぐそばに呼び寄せてくださいます。もし、この救いは神様の一方的恵みによるのであれば（実にそうですが）、救いに与ることのできない人は誰もいません。イエス様が十字架にかかっている最中に 天のパラダイスを強盗犯に約束されるほどです。何の良き業をしないというか、できない状態です。自分が罪人であることを素直に認めてイエス様をお願いするのです。「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」と言った。（ルカ伝23章42節）イエス様はまさに究極的な救い主ではありませんか。

**結論：** 私たちはどのようにしてまことの神様を求めることができるでしょうか。イエス様はおっしゃいました。「わたしは道である」と。わたしをとうしてでなければ誰もまことの生ける神のところに来ることができません。わたしの恵みなしには、見つけ出すことができません。ですけれども、この方の御前にひれ伏して、この方を信じて、この方から憐れみをお願いするときに、彼は必ずご自身を示してください。私たちの罪と過ちをことごとく赦し、悲しみに替えて永遠に続く喜びを与え、新しいスタートを与え、輝かしい運命を与えてくださいます。

神様が今日、ただいま、ここで、私たちを招いておられます。そのみことばによって私たちを生かしてください。イエス様がこうおっしゃいました。「わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。はっきり言うておく。死んだ者が神の子の声を聞く時が来る。今やその時である。その声を聞いた者は生きる。」（ヨハネ伝5章24-25節）

私たちが自分の罪過のうちにある死んだものでした。けれども主は私たちを赦し、新しい命を授けてくださいます。これはイザヤが語ったグッドニュースであり、私たちの主イエス・キリストのみことばです。

**祈禱：** 天の神様、すべての時代にわたってあなたは 謙ってあなたに立ち返り、あなたをお願いするものに豊かな恵みを授けてくださるお方です。ただ信じてお願いする私たちに赦しと新しい命を与えてくださいます。どうか今、あなたのみ前にいる私たちを励ましてください。私たちはあなたを探し求めて、あなたに呼び求めます。ここにいる私たち皆に、まことの生ける神であるあなたを見出すことができるようにしてください。私たちはいろいろなことで悩みますが、どうかまず、救いと真の幸いの源であるあなたに待ち望みます。救い主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン